



防塵ネットの説明看板

## 空池にやってきたニホンジカ

横倉山の景勝地の一つである馬鹿試しの西方に、「空池」と呼ばれる場所があります。ここには、約4億年前の石灰岩が露出していて、雨水によって浸食されてできるドリーネ地形で窪地になっていること、水がない池のような所ということなどから、「空池」と呼ばれるようになったそうです。

空池周辺では多くの植物が見られ、牧野富太郎博士が命名した種も数多く自生しています。この場所で、最近ニホンジカの生息が確認されました。

高知県をふくむ四国では、ニホンジカが増えて大きな問題が起こっています。増えすぎたニホンジカたちは多くの食べものがなくなって、森林の中の様々な植物を食べ始めました。そのため、山がまるはだかになってしまう場所が出てきました。

昭和から平成の初めころにかけての時代には、越知町でニホンジカの情報ほとんどなかったのですが、2005年くらいから片岡地区や桐見川地区で雄ジカの日撃情報が出始めました。そして横倉山の空池に動物調査のために設置した自動撮影装置で、2018年12月16日に母子とみられる2頭連れのニホンジカが撮影されました。その後、2019年2月18日も同じ場所で雌ジカが1頭撮影されましたが、いずれも冬期に限られていました。とこ

ろが、梅雨の時期である2020年6月15日には雄ジカが1頭撮影され、すでに複数のニホンジカが年間を通じて空池の周辺で植物を食べていることがわかりました。ニホンジカが増えていくと、他の地域と同じように空池をはじめとした横倉山の森林や草花にも大きな影響が出てくるかもしれません。

そのため、高知県環境共生課は横倉山の植物をニホンジカから守るために空池の周りへ防鹿ネットを2019年9月に設置しました。防鹿ネットに囲まれた中にはニホンジカは入ることができません。

横倉山自然の森博物館では、防鹿ネットの周りでニホンジカがどのような行動をするのかを自動撮影装置を使って調べています。これまでの調査では、ニホンジカの他にニホンノウサギ、ニホンリス、タヌキ、

ハクビシン、イノシシなど多くの動物が撮影されています。今後、新しいことがわかりましたら博物館で紹介していきます。



2020年6月15日に撮影された雄のニホンジカ

## 越知町の哺乳類

谷地森 秀二

### ○四国と高知の哺乳類

四国で確認されている哺乳類は、7目19科48種（一部の外来種を含む。なお、クジラ目、食肉目アシカ科およびアザラシ科は含めない）です（表1）。

四国の哺乳類相を構成している種は、近畿地方、中国地方および九州地方とほぼ同じです。ただし、これらの地域に生息しているトガリネズミ形目トガリネズミ科カワネズミおよび齧歯目キヌゲネズミ科ハタネズミは、四国には生息していません。

四国の哺乳類48種のうち、高知県で確認されている種は47種です。四国では見つっていますが、高知県における記録がない種は翼手目ヒナコウモリ科ヒメホオヒゲコウモリで、このコウモリは愛媛県の面河溪谷周辺でしか見つかっていません。

### ○越知町の哺乳類

私は、本誌の第15号に「みんなで調べた越知町の哺乳動物」という記事を載せていただいています。この時は四国自然史科学研究センターと横倉山自然の森博物館が協力して、2005年度に越知中学生と一緒にいった哺乳動物調査の結果を紹介しました。自動撮影調査や巣箱調査、ネズミ・モグラ捕獲調査を越知町内のあちこちで約一年間かけて行った結果、越知町には18種（イエネコを含むと、19種）の哺乳類がいることがわかりました（表1）。見つかった種は、いずれの種も森林に暮らす動物で、四国の広い範囲で見つかったものばかりでした。

私は、2005年度以降も越知町の哺乳類調査を続けています。2019年までの

調査の結果、さらに10種（コウベモグラ、アブラコウモリ、モリアブラコウモリ、モモジロコウモリ、コテングコウモリ、ユビナガコウモリ、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミおよびニ

ホンモモンガ）の生息を確認することができ、越知町には29種の哺乳類が生息していることがわかりました。新たに見つかった種のうち、コウモリの仲間が多い理由は、地元の方からコウモリがすんでいる場所の情報をいただけるようになったり、2005年度以降に新しい調査方法を用いるようになったりしたためです。



コウモリを捕獲するための特別な装置

他に、コウベモグラは町民の方から死体をいただけたことで、よく似ているアズマモグラと明確に識別することができました。ニホンモモンガは立木に設置した巣箱に向けた自動撮影装置によって、横倉山と栃ノ木集落の2カ所で確認されました。高知県におけるニホンモモンガの生息情報はまだまだとても少ないので、越知町の情報はいへん貴重です。

2005年度の調査結果と比べて、最近の越知町の哺乳類に関してとくに紹介しておきたいことがあります。それは越知町でもニホンジカの情報が多



2019年6月17日に、横倉山で捕獲されたモリアブラコウモリ



2020年1月21日に、「空池」で撮影されたニホンジカ

くなってきたことです。2005年度の調査の時には、雄ジカが片岡地区で一度目撃されたのですが、他には情報は得られませんでした。おそらく2005年度の頃は、越知町にニホンジカはほとんどいなかったと思います。その後、2013年くらいから桐見川地区でニホンジカが見つかるようになり、2018年12月には自動撮影調査によって横倉山の空池で撮影されました。高知県は2019年9月に、空池を防鹿ネットで囲み、希少な植物がニホンジカに食べられないようにしました。博物館では、防鹿ネットのまわりに自動撮影装置を設置して、ニホンジカが空池周辺でどの時期に暮らしているのかを調べています。今後のニホンジカの動向は、たいへん気になる問題です。

四国で見つかっている48種のうち、越知町では見つかっていない種が19種います。この中には、環境省が絶滅種としたニホンカワウソや、数が少なくなり剣山周辺でしか確認できなくなってしまったツキノワグマなどが含まれます。おそらくこれらの種は、今後調査を進めても越知町で確認される可能性は極めて低いと思います。一方で、ヤマネやニホンイタチ、シベリヤイタチは高知県の広い範囲で見つかっていますので、これから越知町でも生息を確認することができるかもしれません。

横倉山自然の森博物館は、四国自然史科学研究センターと協力して、2020年4月から2023年3月までの3年間をかけて、横倉山とその周辺に生息する生物を調べる「横倉山生物総合調査」を行います。この活動では、四国で生物の調査や研究を行っている多くの専門家が参加していて、これまで以上に多くの生物情報を得られることが期待されます。得られた結果は2023年の企画展で紹介する予定で、その後常設展示にも反映させていきたいと考えています。

この調査に興味を持ち、参加してみたい方はぜひ博物館までお問い合わせください。越知町の生きものについて、専門家と一緒に調べて記録を残していきましょう。

(やちもり しゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員)

表1. 四国、高知、越知で確認された哺乳類

| 目        | 科          | 種名(四国確認種)  | 高知県     | 越知町   |   |
|----------|------------|------------|---------|-------|---|
| トガリネズミ形目 | トガリネズミ科    | シントウトガリネズミ | ○       |       |   |
|          |            | ニホンジネズミ    | ○       | ●     |   |
|          | モグラ科       | ヒメヒミズ      | ○       |       |   |
|          |            | ヒミズ        | ○       | ●     |   |
|          |            | アズマモグラ     | ○       |       |   |
| 翼手目      | キクガシラコウモリ科 | キクガシラコウモリ  | ○       | ●     |   |
|          |            | コキクガシラコウモリ | ○       | ●     |   |
|          | ヒナコウモリ科    | ヤマコウモリ     | ○       |       |   |
|          |            | アブラコウモリ    | ○       | ○     |   |
|          |            | モリアブラコウモリ  | ○       | ○     |   |
|          |            | チチブコウモリ    | ○       |       |   |
|          |            | ニホンウサギコウモリ | ○       |       |   |
|          |            | ヒナコウモリ     | ○       |       |   |
|          |            | ヒメホオヒゲコウモリ |         |       |   |
|          |            | モモジロコウモリ   | ○       | ○     |   |
|          |            | ノレンコウモリ    | ○       |       |   |
|          |            | クロホオヒゲコウモリ | ○       |       |   |
|          |            | テングコウモリ    | ○       |       |   |
|          |            | コテングコウモリ   | ○       | ※     |   |
|          |            | ユビナガコウモリ   | ○       | ○     |   |
|          |            | オヒキコウモリ科   | オヒキコウモリ | ○     |   |
|          |            | 霊長目        | オナガザル科  | ニホンザル | ○ |
| 齧歯目      | ヤマネ科       | ヤマネ        | ○       |       |   |
|          | キヌゲネズミ科    | スミスネズミ     | ○       |       |   |
|          |            | ネズミ科       | カヤネズミ   | ○     | ● |
|          |            | アカネズミ      | ○       | ●     |   |
|          |            | ヒメネズミ      | ○       | ●     |   |
|          |            | ドブネズミ      | ○       | ○     |   |
|          |            | クマネズミ      | ○       | ○     |   |
|          |            | ハツカネズミ     | ○       | ○     |   |
|          | リス科        | ニホンリス      | ○       | ●     |   |
|          |            | ムササビ       | ○       | ●     |   |
|          |            | ニホンモモンガ    | ○       | ○     |   |
|          | 兔形目        | ウサギ科       | ニホンノウサギ | ○     | ● |
|          | 食肉目        | ネコ科        | イエネコ    | ○     | ● |
| ジャコウネコ科  |            | ハクビシン      | ○       | ●     |   |
|          |            | イヌ科        | アカギツネ   | ○     | ● |
|          |            | タヌキ        | ○       | ●     |   |
| クマ科      |            | ツキノワグマ     | ○       |       |   |
| イタチ科     |            | ニホンイタチ     | ○       |       |   |
|          |            | シベリアイタチ    | ○       |       |   |
|          |            | テン         | ○       | ●     |   |
|          |            | ニホンカワウソ    | ○       |       |   |
|          |            | アナグマ       | ○       | ●     |   |
| 偶蹄目      |            | シカ科        | ニホンジカ   | ○     | ● |
|          | イノシシ科      | イノシシ       | ○       | ●     |   |
|          | ウシ科        | ニホンカモシカ    | ○       |       |   |
| 7目       | 19科        | 48種        | 47種     | 29種   |   |

「●」印は、2005年度に越知中学生と行った調査によって確認された種。

「○」印は、2006～2019年の調査によって確認された種。

「※」印のコテングコウモリは、2003年度に四国自然史科学研究センターの調査によって確認された。

# 横倉山生物総合調査

谷地森 秀二

## はじめに

私が理事を務めている認定特定非営利法人四国自然史科学研究センターでは、数カ年計画で地域生態系を総合的に把握することを目的に調査を行ない、結果をとりまとめる「生物総合学術調査」をおこなっています。これまでに第1期として、2003年度より2007年度にかけて横浪半島（須崎市・土佐市）で実施し、その成果は2008年春に当館の企画展「横浪半島の自然」で発表されました。

## 調査の範囲



対象としている範囲は、仁淀川と坂折川の合流点から坂折川をさかのぼり、越知町と仁淀川町境を北上して仁淀川へ、さらに仁淀川を下降して仁淀川と坂折川の合流点までの範囲です。今回の総合調査では陸地だけでなく、仁淀川と坂折川も調査範囲としています。



## 調査の対象種および調査者

調査対象の生物は、維管束植物、シダ植物、大型菌類（キノコ類）、コケ類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、貝類、甲殻類、陸上昆虫類、水生昆虫類、クモ・ムカデ類、クマムシ、その他微生物など多くの分野にわたっています。調査を行うメンバーはとても多様で、高知県のレッドデータブックの作成にも関わられた生物調査研究の第一線で活躍している多くの個人・団体が協力しています。また、横倉山の自然に魅了された高知県外、四国外の在住の研究者、さらにそれらの専門家に加えて、これから生物の研究を始めたいと思っている中学生や大学生、大人の方も調査員として参加できるように体制を整えています。この活動を知って、横倉山生物総合調査に興味を持っていただけるようでしたら、現地調査に参加してみませんか？ご希望の方は、当館までご連絡ください。

そして、第2期として横倉山周辺が対象地域として調査されることになり、当館は地元の博物館としてこの事業に参加しています。

## 調査の期間および発表の時期

現地調査は、2020年度から2022年度の3カ年にわたって行われる予定です。

その後2023年度に当館の夏の企画展として、成果発表がされる予定です。また、調査者による講演もしくはポスター発表の形式で、高知市内に会場を構えて発表会を開催したいと考えています。

調査対象の生物たちの一部



タヌキ (哺乳類)



ヤマガラ (鳥類)



ニホンヤモリ (爬虫類)



ヤマアカガエル (両生類)



ニホンウナギ (魚類)



テナガエビ類 (十脚甲殻類)



アサギマダラ (陸上昆虫類)



カゲロウ類 (水生昆虫類)



トビズムカデ (ムカデ類)



ダニの仲間



コガネゴモ (クモ類)



ヤマタニシ (陸産貝類)



ヨコグラツクバネ (維管束植物)



スギゴケ (コケ類)



ウススキヌガサダケ (キノコ類)

おわりに

横倉山自然の森博物館が常設展示で紹介している生物の情報は、ほとんどが1997年の開館時まで調べられたことが基になっています。今回行われる横倉山生物総合調査によって得られた情報は、2023年の夏休み企画展で紹介されるだけでなく、

その後の常設展にも反映したいと考えています。多くの方の協力が基になって、博物館は新しくなって行きます！

(やちもり しゅうじ/横倉山自然の森博物館学芸員)

## 博物館行事

### 移動博物館「土佐市に生息する動物展」

会場：土佐市複合文化施設つなで

期間：2020年7月18日(土)～8月30日(日)



土佐市教育委員会からの依頼で、当館所蔵の標本を用いた移動博物館を開催しました。

土佐市内外の方々が、市内の自然に生きる動物たちをより身近に感じ、郷土への理解と興味を持ってもらうことを目的に開催されたイベントで、土佐市に生息する動物を紹介するために当館で保管している認定特定非営利活動法人四

国自然史科学研究センター所有の哺乳類剥製標本25点を貸し出しました。

開催期間中は多くの方が来場され、たいへん好評であったということでした。今後、カエルや鳥などを紹介する企画展の開催もできるかもしれません。

### 横倉山の生きもの調べ「灯に集まる虫たち」

2020年7月19日(日)〔講師：別府隆守さん(高知昆虫研究会)、参加者：9名〕



博物館の展望ロビーで、ライトトラップを用いて灯に集まる昆虫を観察しました。当日は、19時からスタートして、暗くなるにしたがってコガネムシの仲間、トビケラの仲間、カメムシの仲間が飛来しました。予想に反してガの仲間はあまりやって来ませんでした。

### 夏休み博物館教室「まが玉づくり」

2020年8月1日(土)〔講師：江間盛男さん(高知県立埋蔵文化財センター)、参加者：5名〕



毎年夏休み恒例のまが玉づくりを、今年も開催しました。新型コロナウイルス感染を予防するために、いつもより少ない人数となりましたが、参加して下さった親子は熱心に取り組まれました。

### 企画展「帰ってきた きかくてん展」

2020年8月1日(土)～9月22日(火)

入場者数 1,330人

2020年2月22日～4月5日に公開するはずだった「きかくてん展」が、新型コロナウイルス感染拡大予防を図るために臨時休館がなされ、18日間しか公開できませんでした。そのため、展示資料を充実させて、今一度、横倉山自然の森博物館の歴史を振り返る企画展を開催しました。

開館当時に来館された方の中には、すでに家庭を持ち、同じ年頃のお子さんを育てていることでしょうか。そのような方々に家族で再来館をうながし、



当時を思い出してもらいながら「もう一度見たい企画展はあるか」を問うとともに、初来館の方に対しては横倉山自然の森博物館の歴史を紹介しつつ、「これから横倉山自然の森博物館で開催される企画展にどのようなメニューを期待するか?」の情報をいただくことを目的の一つとしました。

### 博物館教室「顕微鏡でのぞいて“見よう”」

2020年8月15日(土)〔講師：谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者：12名〕

20倍の実体顕微鏡を用いて、いろいろな物を観察する教室です。参加者には、まず館内外でのぞいてみたい小さな生きものを探しに行ってもらいました。普段見慣れている物も、顕微鏡を使って拡大して観察することで、さらにその物への興味が高まることを期待していた企画でしたが、期待通りの反応が参加者から見られましたので、来年も開催していこうと思います。

### 横倉山の生きもの調べ「土の中の虫たち」

2020年8月16日(日)〔講師：谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者：17名〕

博物館下の立体駐車場のまわりで土を採集し、落ち葉のすきまや土の中にある小さな生きものを観察しました。ふるいを使って土と生きものを選び分けると、トビムシ、カニムシ、ダンゴムシなどの小さな生きものが現れました。これらをピンセットで捕まえて、実体顕微鏡を使ってじっくりと観察をしました。



### 横倉山の生きもの調べ「水の中の生きもの」

2020年9月20日(日)〔講師：谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者：15名〕

普段は入口スロープや展示室内からしか見ることができない博物館の水庭に入って、観察をしました。参加した小学生は、たくさんのミズカマキリを捕まえられて大喜びでした。また、小さな魚を捕まえてケースに入れて詳しく観察し、高知県の絶滅危惧種であるミナミメダカであることを確認していました。大型のゲンゴロウの仲間も見つかり、昆虫好きな中学生が種の確認をしてくれています。



## 友の会だより

### 仁淀川水質調査

2020年6月7日(日)

毎年友の会会員が参加している全国水環境マップ実行委員会による「身近な水環境全国一斉調査」、今年は新型コロナ感染防止のために、友の会事務局である博物館職員のみで実施しました。調査地点は例年通り、梅ノ木川、坂折川および仁淀川の3カ所で行いました。測定項目の一つであるCOD（化学的酸素要求量）値の結果は、梅ノ木川は5～8mgO/Lで「汚れた水～たいへん汚れた水」となりました。これは、調査地点が家庭排水が流れ込む場所の近くであったこと、調査日までの数日間雨が降らず、流量が少なかったことが影響したと考えられます。坂折川と仁淀川でのCOD値は0mgO/Lとなり、「きれいな水」となりました。毎年これらの2地点は同様の結果が得られている場所で、流れている水はきれいであることが今年も確認できました。

### おちぞら★夏の星観察会

2020年8月18日(火)〔講師：尾崎知子（横倉山自然の森博物館職員）、参加者：7名〕

環境省が取り組んでいる「令和2年度夏の星空観察」の「天の川観察シート」に記載された方法で行いました。ほとんど雲のない空で流れ星を見ることができましたが、この日は人工の光が強く、見えない星座がありました。また、望遠鏡を使って、木星とガリレオ衛星や土星を観察することができました。

### よその博物館見学「牧野植物園」

2020年9月13日(日)〔参加者：16名（内、事務局2名）〕

四国内のいろいろな博物館施設を見学して、他館の取り組みを横倉山自然の森博物館および友の会



の活動に生かすことを目的に、見学会を企画しました。

今回は、高知県立牧野植物園に行きました。午前中は植物園を自由に見学し、午後は植物園スタッフに標本作製室や標本収蔵庫などのバックヤードツアーをしていただきました。参加者の皆さんは、植物標本の作り方や保管の仕方、その意義などについて説明を受け、また熱心に質問もされていました。当館には横倉山で採集された植物標本が未整理で保管されています。友の会のメンバーと一緒に、これらの標本の整理と保管、活用の仕方を模索できたらと思います。牧野植物園での活動後には隣接する竹林寺へ赴き、当館学芸員の谷地森が竹林寺の池にすむウシガエル、ミシシビアカミミガメなどの外来種についての説明を行い

ました。

### 日帰り視察研修

『～生き物を見て・感じる～「まちかど生き物標本展」  
2020年9月27日(日)〔参加者：8名（内、事務局2名）〕

毎年秋に四国外への一泊二日の視察研修旅行を行っていますが、今年は新型コロナ感染防止を図るために中止となりました。その代わりに四国内の自然史系博物館や、当館に関連が深いイベントへの視察研修を計画しました。



今回の研修は、香川県主催のイベントで、NPO法人みんなで作る自然史博物館 香川が香川県高松市にある香川県立文書館で開催していた展示会です。展示資料は、香川県で野生生物の調査研究を続ける川口敏氏が収集・作整した鳥類43種の翼の標本や特別天然記念物のコウノトリの骨格標本、すでに絶滅した鳥類のドーダーや恐竜の一種であるヴェロキラプトルの復元模型などで構成されていました。また、川口氏の原画や解説文も展示され、鳥類の色と形の意味や、進化に関して理解を深めることができる内容となっていました。

参加者は、普段当館で見ている資料とは大いに様相が異なる展示物に驚き、とても興味を持って見学をされていました。

### フォレストクラブ親睦イベント

「いのりのおと in 横倉山 星降る夜とシターの調べ  
音楽は星に祈りを送る」

2020年10月11日(日)〔参加者：29名（内、一般12名、事務局3名）〕

会員間の親睦を深めながら新たな会員の獲得を図ることを目的に、友の会の会員が企画運営し、当館の開館記念日に開催したイベントです。インドの古典楽器であるシターの演奏を聞きながらヨガを体験する内容で、土佐町におすまいの村屋 央（むらや てる）さんを演奏者としてお迎えしました。

当日は、越知町内外から友の会会員ならびに非会員を含めて30名のご参加がありました。会場となった3階展望ロビーには、村屋さんがお持ちくださったインドに関係する資料が展示され、独特の雰囲気を出していました。19時から始まった演奏は、途中に休憩とヨガの体験をはさみながら進行し、20時半過ぎまで続きました。



## 横倉山ミニ歳時記

### ■オタマジャクシで冬を越すツチガエル

日に日に寒くなって来る今の時期、博物館の水庭ではまだツチガエルの姿を見ることができます。高知県では、ほとんどの市町村で見つけることができるカエルです。繁殖期は梅雨の頃から始まり、オスたちは「ギューイ、ギューイ」と低い声でメスを呼びます。ツチガエルの繁殖期は他のカエルの仲間よりも長く、秋風が吹く頃まで鳴き続けます。体長は、オスで3.5～4.6cm、メスで4.5～5.5cmくらいです。こげ茶色の背中に小さなイボイボがたくさんあることから、イボガエルと呼ばれるときもあります。いじめると、体からスイカが腐ったような臭いを出して身を守ります。アリが好物で、食べたアリに含まれる「ギ酸」がこの臭いのもとになっているという研究者がいます。梅雨の頃に産まれた卵からかえったオタマジャクシは秋にはカエルになりますが、9月頃に産まれた卵からかえったオタマジャクシは、そのまま水中で冬をすごし、次の春にカエルになって陸に上がってきます。高知県で冬に3～4cmくらいのオタマジャクシを見つけたら、それはツチガエルです。



#### 〔博物館日誌（抄）・令和2年度博物館行事予定〕

##### 企画展

- 8月1日(土)～9月22日(火)  
帰ってきた きかくてん展
- 10月3日(土)～11月29日(日)  
自慢の昆虫標本展
- 12月19日(土)～1月31日(日)  
みる 見る 観る展

##### 横倉山の生きもの調べ

- 7月19日(日) 灯に集まる虫たち
- 8月16日(日) 土の中の虫たち
- 9月20日(日) 水の中の生きもの
- 10月18日(日) 横倉山の樹木
- 11月15日(日) 巣箱を使う動物
- 12月20日(日) 自動撮影
- 1月17日(日) 冬の鳥たち
- 2月21日(日) シカの様子
- 3月21日(日) 水生昆虫

##### 博物館教室

- 8月1日(土) まが玉づくり
- 8月15日(土) 顕微鏡でのぞいて“見よう”

##### その他

- 7月18日(土)～8月30日(日)  
移動博物館「土佐市に生息する動物展」  
会場：土佐市複合文化施設つな一で

※〔●〕印のイベントは終了。

〔○〕印のイベントは、これから開催。ただし、新型コロナウイルス感染状況によっては、中止の場合があります。

#### 〔博物館友の会「フォレストクラブ」・令和2年度活動予定〕

- 6月7日(日)  
仁淀川水質調査
- 8月18日(火)  
おちぞら★夏の星観察会
- 9月13日(日)  
よその博物館見学「牧野植物園」
- 9月27日(日)  
日帰り視察研修『～生き物を見て・感じる～  
「まちかど生き物標本展」』
- 10月11日(日)  
フォレストクラブ親睦イベント  
「いのりのおと in 横倉山 星降る夜とシタールの調べ  
音楽は星に祈りを送る」
- 10月14日(水)  
おちぞら★秋の星空さんぽ
- 11月3日(火)  
よその博物館見学「面河山岳博物館」
- 1月1日(金)  
2021年の初日の出を横倉山で
- 1月13日(水)  
おちぞら★冬の星観察会
- 2月7日(日)  
よその博物館見学  
「高知みらい科学館・高知城歴史博物館」
- 3月2日(火)  
おちぞら★横倉山で星空さんぽ  
～カノープスを見に行こう～

高知県越知町立

**横倉山**  
自然の森博物館



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12  
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620  
http://www.town.ochi.lg.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで  
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）  
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円（※各20名以上）  
高校・大学生……………400円（上の団体は100円引き。）  
小・中学生……………200円
- 越知への交通  
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知  
JR普通 約50分

